

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：12102  
 研究種目：基盤研究(A) (一般)  
 研究期間：2018～2021  
 課題番号：18H03566  
 研究課題名(和文) パルテノン彫刻研究 - オリент美術を背景とする再解釈の構築  
  
 研究課題名(英文) Parthenon Project Japan 2018-2022  
  
 研究代表者  
 長田 年弘 (Osada, Toshihiro)  
  
 筑波大学・芸術系・教授  
  
 研究者番号：10294472  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,800,000円

研究成果の概要(和文)：パルテノン彫刻に関して新しい解釈モデルを構築するために、古代ギリシア美術におけるオリент由来の図像と神殿装飾に関する研究を実施した。(1)ギリシャ共和国、英国、エジプト共和国において現地調査、特別撮影、海外研究者との共同セミナーを実施した。(2)研究例会を実施し、美術史学、歴史学、美術制作学の専門家による共同研究を行った。(3)海外の専門研究者を招聘し研究例会および講演会を実施した。(4)日本隊独自の特色ある研究として、フリーズ中央場面の儀式空間の復元を試み、石膏による立体復元、CGによる仮想空間の復元、3D計測データによるVR制作を行い、鑑賞および鑑賞教育について検討した。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

本課題は、アクロポリス丘と新アクロポリス美術館において、奉納記念物群に関する独自の調査と検討を行った。オリент由来の図像と、富裕層による奉納の分析を通じて、「アテナイ民主政」とは別の、むしろ古代文明に一般的な強調点(=奉納文化)が基礎にあったことを解明した。東方文明と通底する、古代文明に一般の宗教観がアテナイにおいても富裕層によって支えられ維持されていたこと、そしてその宗教観は、神殿装飾にも色濃く反映していたことを指摘し、パルテノン神殿を「民主政の象徴」と見なし西洋文明のアイデンティティを想定する旧来の解釈に対して、パラダイムの再検討を提起した。

研究成果の概要(英文)：This research project has aimed to construct a new interpretive model for the Parthenon sculpture, analyzing the motives of west Asian fine art: (1) fieldworks in the ancient sanctuaries and museums in Greece, Egypt and UK; (2) Discussions in the meetings of the divers field academics (art historians, historians, sculptors and painters); (3) lectures and presentations of the academicians from foreign countries; (4) the reconstructions of the ritual space represented in the center of the eastern Parthenon frieze, which was challenged by 1. the 3D reconstruction of gypsum, 2. virtual reconstruction of computer graphics, and 3. Virtual reality model made by 3D data.

研究分野：古代ギリシア美術史

キーワード：パルテノン ギリシア美術 ギリシア宗教 ギリシア神話 ギリシア彫刻

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 1．研究開始当初の背景

平成 23～26 年度：f 基盤研究(A)（一般）「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究 オリエント美術の受容と再創造の検証」における討議を進める過程において、パルテノン神殿装飾に、聖域における奉納記念物が重要な役割を演じていたことが浮かび上がった。神殿建築の環境たる、奉納記念物を独自に分析することで、議論を観念的に終わらせることなく具体的に論じうると考えられた。神殿装飾に関する一連の解釈が想定する、「ギリシアの民主主義」という強調点は、背景をなしていた宗教的、社会的コンテクストを見えにくくしているように思われる。本研究は、近年の研究の展開に沿いながら新しい解釈モデルを提案する。

パルテノン彫刻に関する英文報告書 Mizuta, A. et al., *Iconographic and Stylistic Observations on the Parthenon Frieze*. Parthenon Project Japan 1994-1996, Tokyo 2001 は、同作品に関する代表的著作において引用される等、研究促進に大きな貢献をなした。平成 27 年度に、ウィーンの フォイボス出版より、代表と分担者など 8 名による報告書 “The Parthenon Frieze. The Ritual Communication between the Goddess and the Polis. Parthenon Project Japan 2011-2014 ” を刊行（研究成果公開促進費）。平成 28 年に、ソルボンヌ大学の書評誌 “Histara. Les comptes rendus ” において、M. Papini（ローマ大学）による書評の対象となった。

## 2．研究の目的

日本隊は、これまでの共同研究において、古代ギリシア美術におけるオリエント趣味と神殿装飾に関する研究を続けてきた。その結果、新しい解釈モデルを構築するために、具体的な突破口となるのは、パルテノンの周囲に林立していたアクロポリス奉納記念物群にあると想定するに至った。「古典研究」という great tradition を踏まえて形成された、従来の歴史像においては、古代ギリシアに西洋文明の源流を認める歴史観が残存しているように思われる。ギリシア美術研究においては、一般に、オリエント文明との共通性が看過される傾向がある。代表者と分担者は、美術史学と歴史学の異なる領域においてこうした問題意識を共有してきた。欧米研究者の視点は、パルテノン彫刻の解釈にも偏りをもたらしていると考えられる。東方文明と通底する、古代文明に一般の宗教観がアテナイにおいても富裕層によって支えられ維持されていたこと、そしてその宗教観は、神殿装飾にも色濃く反映していたことを指摘し、パルテノン神殿を「民主政の象徴」と見なし西洋文明のアイデンティティを想定する旧来の解釈に対して、パラダイムの再検討を提起することが本課題の目的である。

## 3．研究の方法

本課題は、アクロポリス丘と新アクロポリス美術館において、奉納記念物群に関する独自の調査を行う。丘上の奉納記念物群は、奉納浮彫など少数の現物遺品と、彫像を欠く多数の台座の二種が残存する。台座の痕跡からは、騎士像、戦車像など、像容と主題を大まかに復元しうる。オリエント由来の図像と、富裕層による奉納の分析を通じて、「アテナイ民主政」とは別の、むしろ古代文明に一般的な強調点（＝奉納文化）が基礎にあったことを具体的に論じる。

## 4．研究成果

(1) ギリシア共和国、英国、エジプト共和国において 現地調査、特別撮影、海外研究者との共同セミナーを実施した。(2) 研究例会を実施し、美術史学、歴史学、美術制作学の専門家による共同研究を行った。(3) 海外の専門研究者を招聘し研究例会および講演会を実施した。(4) 日本隊独自の特色ある研究として、フリーズ中央場面の儀式空間の復元を試み、石膏による立体復元、CG による仮想空間の復元、3D 計測データによる VR 制作を行い、鑑賞および鑑賞教育について検討した。具体的な研究活動と成果については以下のとおり。

(1) 2018年9月：ギリシア共和国調査

調査地：新アクロポリス美術館および国立考古博物館（アテネ）、リンドス国立考古博物館、リンドス・アクロポリス、カメイロス遺跡、イアリッソス遺跡（ロドス島）

2018年9月15日（日）11-15時 Vasileia Manidaki 博士（アテネ工科大学・アクロポリス修復保存局）「パルテノン彫刻ガイダンス」

(2) 2019年9月：エジプト共和国、ギリシア共和国調査

調査地：ギザ、サッカラ、メンフィス、アレクサンドリア、ルクソール遺跡および考古博物館（以上、エジプト共和国）、新アクロポリス美術館、国立考古博物館、碑文博物館（アテネ）、ブラウロン（Βραυρόνα）、アンフィアライオン（Αμφιάρειο）、ラムヌス（Ραμνούς）（以上、ギリシア共和国）2019年9月9日（月）9時30分-12時「碑文セミナー」

(3) 2022年9月：ギリシア共和国、英国調査

大英博物館（ロンドン）および新アクロポリス美術館（アテネ）において現地調査。9月3日、ラヴリオン、Thrikos、スニオン遺跡博物館の共同調査（ギリシア共和国）。9月4日、カルキス、レフカンディ、遺跡と博物館の共同調査（ギリシア共和国）。9月5-6日、新アクロポリス美術館における開館前の特別撮影。9月6日、新アクロポリス美術館パルテノン・ギャラリーにおいて学芸員 Raphael Jacob 博士と共同セミナー。9月9日、大英博物館パルテノン・ギャラリーにおいて P. Higgs 博士（同館学芸員）、D. Williams 博士（ブリュッセル大学）と共同セミナー。

(4) 祭祀空間の再現研究（制作班）：フリーズ中央場面の儀式空間の復元

フリーズ浮彫東面は、玉座に座る神々を描写しているが、実際の祭りにおいても神々の観覧のために神域に玉座が設置されたことがわかっている。日本隊は、平成24-25年に大英博物館において、学芸員 I. Jenkins 博士の求めにより成果展示を行った。立体模型を活用し、当時の空間概念と宗教観の検討を継続した。本研究課題においては、この立体復元をさらにCGによって仮想空間に拡張し検討を行った。フィギュア研究の他、教育展示に今後も活用する予定である。2021年度に、東面の神々12体の立体模型を3D計測しデータ化する役務をアコード社に依頼し研究を進めた。さらに、これらの計測データを基に、VR制作のための基本プログラムの構築を進める予定である。

(5) パルテノン神殿附属フリーズ浮彫西面 W2 石板実物大模作の作成

研究分担者である中村義孝は、標記の、縮小版模作および実物大模作を作成した（粘土素材で造形、石膏像へ転換）。制作班によって、浮彫様式および色彩復元の検討を進めた。

研究例会

時間 2018年6月17日（日）13-16時 場所 早稲田大学 戸山キャンパス 31-103 教室

長田年弘「趣旨説明」齊藤貴弘「アスクレピオスのアテナイ勧請とテレマコス記念碑 概観と近年の研究動向」中村義孝「青銅鑄造の技法について」

Vasileia Manidaki 博士によるパルテノン彫刻に関するガイダンス

時間 2018年9月15日（日）11-15時 場所 新アクロポリス美術館（アテネ）

Vasileia Manidaki 博士（アテネ工科大学・アクロポリス修復保存局）「パルテノン彫刻ガイダンス」

Professor C. M. Keesling 講演会

時間 2018年11月14日（水）18-20時 場所 京都大学芝蘭会館別館（国際交流会館）地下会議室

Professor C. M. Keesling（ジョージタウン大学ギリシアローマ古典学教授）「古代ローマにおける過去の再利用 Reusing the Past in Roman Greece」

Professor C. M. Keesling 講演会

時間 2018年11月17日（土）15-17時 場所 早稲田大学戸山キャンパス 39号館 5F 第5会議室

Professor C. M. Keesling（ジョージタウン大学ギリシアローマ古典学教授）「祖先の表象 古代ギリシア奉

納記念物と銘文 Ancestors in Greek Art」

研究例会（制作班）

研究会テーマ「パルテノン・フリーズを制作者の視点から検討する」

時間 2018年12月9日（日）11-15時 場所 筑波大学芸術学系棟 B203 会議室、石膏室

中村るい「パルテノン・フリーズとパルテノン以前の身体表現（含ロードス考古博物館の浮彫表現）」大原央聡「ギリシャ彫刻再考 - ギリシャ実見調査（2018年9月）の報告 - 」石膏像見学等

国際シンポジウム（歴史班、他科研との共催）

時間 2019年3月18日（月）13時30分-18時 場所 千葉商科大学研究館3階R3 会議室

Antigoni Zournatzi (National Hellenic Research Foundation, Athens) “Greeks and Persians: Perspectives on Ancient East-West Political and Cultural Interactions” Akiko Moroo (Chiba University of Commerce) “Self-Representation and Display of the Power and Empire: Persia-Athens-Lycia” Nikolaos Papazarkadas (University of California, Berkeley) “Two fragments of inventory lists from the 5th and 4th cent. B.C. from the Acropolis”

研究例会

時間 2019年6月15日（土）14 - 17時 場所 早稲田大学戸山キャンパス 33号館 332 教室

長田年弘「古典期アテナイの献堂奉名録について」師尾晶子「前5世紀アテナイ碑文の刻文年代再考：年代の問題と美術史・政治史・宗教史の叙述への影響」仏山輝美「実見調査ノート：パルテノン・フリーズ浮彫にみる絵画的な性質について」

研究例会「古代ギリシア・ローマ世界における身振り図像とその形成、変遷、差異のメカニズム 「両手を上げる」身振りを中心に」(研究代表 田中咲子 新潟大学)

時間 2019年10月19日（土）14時 - 16時 場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 116 講義室

田中咲子（新潟大学）「エーゲ時代からヘレニズム時代における「両手を上げる」身振りの編年と意味 哀悼と嘆願を中心に」小堀馨子（帝京科学大学）「帝政期ローマにおける「両手を上げる」身振りの意味の変遷 哀悼・貞節から女神の顕現へ」坂田道生（千葉商科大学）「軍隊と神域 《ユリウス・テレンティウスのフレスコ》を例に」

研究例会（制作班）

研究会テーマ「パルテノン・フリーズを制作者の視点から検討する」

時間 2019年12月8日（日）13時-15時30分頃 場所 筑波大学芸術系棟 B203 会議室

大原央聡「エジプト、イタリア南部 実見調査（2019年8月-9月）の報告（エジプト彫刻、モティアの若者、リアーチェの戦士）」中村義孝「パルテノン神殿フリーズ騎馬隊の西面北側2騎の原形について」小川耀平「ローマ模刻における Ideal Sculpture について」

研究例会

時間 2020年6月27日（土）13時 場所 zoom オンライン

小松誠「アテナイ、アクロポリスに建立されたアンテミオン寄進の肖像彫刻（Aristot. Ath. Pol. 7.4）について 前6-4世紀のアッティカの聖域における肖像建立習慣に基づく再検討」小堀馨子「ニュンフェウム 都市のもう一つの宗教的空間」

Theodora Jim 講演会

時間 2020年9月12日（土）17 - 19時 場所 Zoom オンライン

Assistant Professor Theodora Jim（ノッティンガム大学古典学考古学部 Faculty of Arts, Department of Classics and Archaeology）：「救い主の神々 古代ギリシア宗教と奉納について Saviour gods and “votive” religion in Ancient Greece」

研究例会（制作班）

時間 2020年12月5日（土）14-16時 場所 Zoom オンライン

加藤公太（順天堂大学 解剖学・生体構造科学講座 助教）「美術解剖学から見た古代ギリシャ美術」

Dr. Dyfri Williams 講演会

時間 2021年6月26日（土）16-18時 場所 Zoom オンライン

M. Komatsu（フライブルク大学古典考古学研究 Doktorand, Universität Freiburg）: “The Athenian Treasury in Delphi and the Battle of Marathon in 490 B.C.” Dr. Dyfri Williams（前大英博物館学芸員、ブリュッセル大学シニアリサーチャー Former Keeper of Greek and Roman Antiquities, British Museum, Senior Researcher CReA, Université libre de Bruxelles）: “Pheidias' Parthenon: The Design and Programme of Its Sculptures”

パルテノン・フリーズ浮彫石板 W2 実物大模作石膏取り（制作班）

時間 2021年9月29日および10月2日9-17時 場所 中村義孝工房

実施 中村義孝ほか2名 鹿山卓耶（筑波大学人間総合科学研究科博士後期課程芸術専攻）木崎由実子（筑波大学人間総合科学学術院芸術学学位プログラム博士前期課程）

Prof. M. Meyer 講演会

時間 2021年11月27日（土）16-18時 場所 Zoom オンライン

M. Komatsu（フライブルク大学古典考古学研究所 Doktorand, Institut für Archäologische, Universität Freiburg）: “The Athenian Treasury in Delphi and the Battle of Marathon in 490 B.C.” Prof. M. Meyer（ウィーン大学古典考古学研究所 Institut für Klassische Archäologie, Universität Wien）: “The Goddess, the Temple and the Sanctuary: Images of Athena on the Parthenon”

Professor C. M. Keesling 講演会

時間 2022年2月26日（土）9-11時 場所 Zoom オンライン

坂田道生（千葉商科大学非常勤講師）: “Women, Children and Elderly People Represented on the Frieze of Trajan's Column: Romanization of Dacia” Professor C. M. Keesling（ジョージタウン大学ギリシアローマ古典学教授）「アテナイによるペルシア戦争奉納記念物 Athenian Persian War monuments」

研究例会（制作班）

研究会テーマ「パルテノン・フリーズ浮彫東面神々の3DデータおよびVRコンテンツについて」

時間 2022年3月23日（水）13-15時 場所 Zoom オンライン

研究例会

時間 2022年4月23日（土）13時 - 16時 場所 Zoom オンライン

田中咲子（新潟大学）「デメテルの類杖：東フリーズのデメテル像解釈」師尾晶子（千葉商科大学）「「パルテノン」とアテナ女神聖財財務官の聖財記録をめぐる覚え書きーファン・ロークハイジェン（J. van Rookhuijzen）の研究をめぐる」

研究例会

日時 2022年6月25日（土）13時 - 16時 場所 Zoom オンライン

齋藤貴弘（愛媛大学）「ペルシア戦争がアテナイに与えた『聖俗』観への影響 神々と人間の地平」篠塚千恵子（元武蔵野美術大学）「パウサニアスが見たアクロポリスのアテナ・ヒュギエイア像」

研究例会

日時 2023年1月21日（土）13時 - 16時 場所 Zoom オンライン

長田年弘（筑波大学）「パルテノン神殿西破風の政治的 implication について」岡田泰介（高千穂大学）「前5世紀アテナイにおける海軍の造形 - 陶器画と public monuments を中心に - 」

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 長田年弘	4. 巻 38
2. 論文標題 The West Pediment of the Parthenon and the Representation of Autochthony	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 芸叢	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長田年弘	4. 巻 155
2. 論文標題 古代ギリシアの戦争神話を表す美術とその語る内容について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 かいほう 古代世界研究会	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小堀 馨子その他計5名	4. 巻 217
2. 論文標題 座談会 画家小堀鞆音を語る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 甲冑武具研究	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 齋藤貴弘	4. 巻 9
2. 論文標題 「聖なる武具」ヒエラ・ホブラ 古典期アテナイにおける「聖-俗」の変容を巡って	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 28-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 りい	4. 巻 70
2. 論文標題 「ギリシア美術における夢と眠りの表現」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 67-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiko Mroo	4. 巻 9
2. 論文標題 Keeping the Sacred Landscape Beautiful and Elaborate: Maintenance of Sanctuaries in Ancient Greece	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Ancient History and Archaeology	6. 最初と最後の頁 105-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14795/j.v9i1.713	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 師尾 晶子	4. 巻 59
2. 論文標題 書評：岸本廣大『古代ギリシアの連邦 - ポリスを超えた共同体』京都大学学術出版会、2021年	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西洋史学論集	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 師尾 晶子	4. 巻 69
2. 論文標題 書評：Rosalind Thomas, Polis Histories, Collective Memories and the Greek World. Cambridge UP 2019	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 147-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 師尾晶子	4. 巻 55
2. 論文標題 巻頭言：「悪しきことを思い出さない」誓い	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 CUC View & Vision	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Grace Kobori	4. 巻 59
2. 論文標題 Divination in Ancient Rome	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JCSKOR	6. 最初と最後の頁 87-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齋藤貴弘	4. 巻 8
2. 論文標題 古代ギリシアの聖俗空間をめぐる一考察 『聖なる杜』alsos について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 10-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 師尾晶子	4. 巻 31
2. 論文標題 古代ギリシアにおける若者教育とス ポーツ 実態とその神話化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国府台経済研究	6. 最初と最後の頁 9-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 師尾晶子	4. 巻 997
2. 論文標題 時評 極右政党「黄金の夜明け」の台頭と極左連合政権下のギリシアにおける古典教育と古代史の再定義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 48-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 師尾晶子	4. 巻 429
2. 論文標題 松明競走	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地中海学会月報	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田年弘	4. 巻 35
2. 論文標題 パルテノン・フリーズ東面聖衣奉納場面に関する小論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝叢	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiro Osada	4. 巻 134
2. 論文標題 Rethinking the Parthenon Frieze as a Votive List of Dedicator, Recipient, and Beneficiary	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jahrbuch des Deutschen Archaeologischen Instituts	6. 最初と最後の頁 1-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiro Osada	4. 巻 11
2. 論文標題 Die Darstellung der Asylie bei Kindern, Alten und Frauen in der attischen Kunst aus dem 6. und 5. Jahrhundert v. Chr.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Akten des 17. Oesterreichischen Archaeologentages am Fachbereich Altertumswissenschaften, Klassische und Fruehaegaeische Archaeologie der Universitaet Salzburg vom 26. bis 28. Februar 2018	6. 最初と最後の頁 389-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Emiko Tanaka	4. 巻 11
2. 論文標題 Athletenvasen klassischer Zeit	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Akten des 17. Oesterreichischen Archaeologentages am Fachbereich Altertumswissenschaften, Klassische und Fruehaegaeische Archaeologie der Universitaet Salzburg vom 26. bis 28. Februar 2018	6. 最初と最後の頁 527-532
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中咲子	4. 巻 62-2
2. 論文標題 企画セッション「古代ギリシア・ローマ世界における身振り図像とその形成、変遷、差異のメカニズム：両手を上げる身振りを中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 193-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中咲子	4. 巻 62-2
2. 論文標題 エーゲ時代からヘレニズム時代における「両手を上げる」身振りの編年と意味：哀悼と嘆願を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 194-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中咲子	4. 巻 2
2. 論文標題 古代ギリシアの陶器画におけるアスリート図像 前5世紀のメディアとしての陶器画試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 DNP文化振興財団 学術研究助成紀要	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村るい	4. 巻 424
2. 論文標題 ギリシア・ローマ文化の受容史研究の広がり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地中海学会月報	6. 最初と最後の頁 7-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤貴弘	4. 巻 48
2. 論文標題 書評 「郊外」 (上野慎也「郊外 古典期のアテナイ」 (浦野聡編『古代地中海の聖域と社会』勉誠出版, 2017, 49-105) に寄せて 古代ギリシアの「聖 - 俗」空間についての覚え書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 人文学編	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長田年弘	4. 巻 415
2. 論文標題 古代ギリシアの動物犠牲について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地中海学会月報	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 長田年弘
2. 発表標題 パルテノン神殿西破風の政治的 implication について
3. 学会等名 科研費「パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築」第3回研究例会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小堀馨子
2. 発表標題 『生きられた宗教』と研究の方向性 『オランス像と祈りの身体動作』
3. 学会等名 基盤研究(A)20H00004 研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小堀馨子
2. 発表標題 古代ローマの個人庭園におけるニンフェウムの宗教性
3. 学会等名 第80回日本宗教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤貴弘
2. 発表標題 古典期の弁論：研究史の展開 本邦を中心に
3. 学会等名 古代史研究会特別研究集会「古代ギリシア史研究の現在地 - 古典期・ヘレニズム期・帝政期の対話」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤貴弘
2. 発表標題 「買うか借りるか・電子か紙か 地方大学の立場から」
3. 学会等名 シンポジウム「西洋古代史研究における史資料の安定的利用をめざして」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takahiro Saito
2. 発表標題 Female, citizenship and "hiera kai hosia" from a perspective of outside/beyond polis
3. 学会等名 Workshop Citizenship and participation in classical Athens (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村るい
2. 発表標題 ギリシア美術における夢と眠りの表現 フォーラム「夢」
3. 学会等名 日本西洋古典学会 第72回大会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Keeping the Sacred Landscape Beautiful and Elaborate: Maintenance of Sanctuaries in Ancient Greece
3. 学会等名 Sacred Landscapes in Archaeological Contexts, 2nd International Conference on Global Issues of Environment and Culture (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 師尾晶子
2. 発表標題 IG VII 53とメガラにおけるペルシア戦争の記憶の継承
3. 学会等名 科研費合同研究会「歴史叙述の場と記憶」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Tombs for All to See: Mortuary Landscape and the Civic Identity in the Hellenistic and Roman Lycia
3. 学会等名 Diving into Asia Minor: Multiple Sources for the Hellenistic and Imperial Greek World (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小堀馨子
2. 発表標題 古代ギリシア・ローマ世界におけるニンファエウム
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takahiro Saito
2. 発表標題 How were religious topics used as “proofs” with the speaker’s character in inheritance cases?
3. 学会等名 Online International Conference on Character Portrayal on Attic Forensic Speeches (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤貴弘
2. 発表標題 『親密さ』の虚像 イサイオス第 1 番 の事例から
3. 学会等名 第 19 回古代史研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 師尾晶子
2. 発表標題 ペルシア戦争の記憶と《ヘレネス》意 識の創造と展開
3. 学会等名 2020 年度西洋古代史セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長田年弘
2. 発表標題 古典期アテナイの献堂奉名録について
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師尾晶子
2. 発表標題 前5世紀アテナイ碑文の刻文年代再考：年代の問題と美術史・政治史・宗教史の叙述への影響
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仏山輝美
2. 発表標題 実見調査ノート：パルテノン・フリーズ浮彫にみる絵画的な性質について
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中咲子
2. 発表標題 エーゲ時代からヘレニズム時代における「両手を上げる」身振りの編年と意味 哀悼と嘆願を中心に
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小堀馨子
2. 発表標題 帝政期ローマにおける「両手を上げる」身振りの意味の変遷 哀悼・貞節から女神の顕現へ
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田道生
2. 発表標題 軍隊と神域 《ユリウス・テレンティウスのフレスコ》を例に
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 大原央聡
2. 発表標題 エジプト、イタリア南部 実見調査（2019年8月-9月）の報告（エジプト彫刻、モティアの若者、リアーチェの戦士）
3. 学会等名 科研集会「パルテノン・フリーズを制作者の視点から検討する」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村義孝
2. 発表標題 パルテノン神殿フリーズ騎馬隊の西面北側2騎の原形について
3. 学会等名 科研集会「パルテノン・フリーズを制作者の視点から検討する」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川耀平
2. 発表標題 ローマ模刻における Ideal Sculptureについて
3. 学会等名 科研集会「パルテノン・フリーズを制作者の視点から検討する」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師尾晶子
2. 発表標題 小シンポジウム「古代地中海世界における人々の移動とネットワーク」コメンテータ
3. 学会等名 西洋史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師尾晶子
2. 発表標題 古代ギリシアにおけるスポーツと教育 およびその受容
3. 学会等名 千葉商科大学経済研究所プロジェクト「オリンピック復興運動に関する社会文化史的考察」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中咲子
2. 発表標題 企画セッション「古代ギリシア・ローマ世界における身振り図像とその形成、変遷、差異のメカニズム：両手を上げる身振りを中心に」
3. 学会等名 日本オリエント学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中咲子
2. 発表標題 エーゲ時代からヘレニズム時代における「両手を上げる」身振りの編年と意味：哀悼と嘆願を中心に
3. 学会等名 日本オリエント学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小堀馨子
2. 発表標題 ローマ帝政初期における哀悼の身振りと帝室女性
3. 学会等名 日本オリエント学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小堀馨子
2. 発表標題 ローマ帝政初期から中期における哀悼・祈願の身振りと帝室女性
3. 学会等名 第5回 顔・身体学 領域会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長田年弘
2. 発表標題 パルテノン神殿西破風彫刻の解釈について
3. 学会等名 古代ギリシアの図像に関する研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長田年弘
2. 発表標題 趣旨説明
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリент美術を背景とする再解釈の構築」第1回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤貴弘
2. 発表標題 アスクレピオスのアテナイ勸請とテレマコス記念碑 概観と近年の研究動向
3. 学会等名 パルテノン彫刻研究 - オリент美術を背景とする再解釈の構築」第1回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahiro SAITO
2. 発表標題 'Embodiment' of Attika and Use/Abuse of Theseus as its symbol
3. 学会等名 One Day Workshop Approaches to Local Historiography Monday 17 September, 2018, Chiba University of Commerce (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤貴弘
2. 発表標題 宗教的言説と説得性 相続関連弁論を中心に
3. 学会等名 古代ギリシア文化研究所 2018年度研究会 東京大学弥生キャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Development and Transformation of Local Myth in Lycia: Cultural transfer seeing from the foundation stories from Lycia
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World: 4-7 September 2018, Nagoya University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Continuing and (Re)creating of Foundation Discourses in Lycia
3. 学会等名 One Day Workshop: Approaches to Local Historiography: 17 September 2018 Chiba University of Commerce (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Self-Representation and Display of the Power and Empire: Persia-Athens Lycia
3. 学会等名 East Meets West: West Meets East 《パルテノン科学研究会》千葉商科大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師尾 晶子
2. 発表標題 古典期ギリシア史料に描かれるフェニキア人についての叙述
3. 学会等名 フェニキア-カルタゴ研究会第5回公開報告会，放送大学東京文京学習センター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師尾 晶子
2. 発表標題 碑文建立の作法と政治文化の表現
3. 学会等名 「古代世界におけるメディアとコミュニケーション」研究会、大阪大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中咲子
2. 発表標題 「両手を上げる」身振り：編年と意味 エーゲ時代からヘレニズム時代まで
3. 学会等名 古代ギリシア・ローマ美術研究会「アルゴ会」例会
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計28件

1. 著者名 Toshihiro Osada et al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 378
3. 書名 Akten des 18. Oesterreichischen Archaeologentages	

1. 著者名 長田年弘ほか計17名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 464
3. 書名 古代地中海世界と文化的記憶	

1. 著者名 長田年弘ほか計8名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 98
3. 書名 平成30年度～令和3年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築 -	

1. 著者名 齋藤貴弘ほか計8名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 98
3. 書名 平成30年度～令和3年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築 -	

1. 著者名 齋藤貴弘ほか計12名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 424
3. 書名 はじめて学ぶ西洋古代史	

1. 著者名 Emiko Tanaka et al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 378
3. 書名 Akten des 18. Oesterreichischen Archaeologentages	

1. 著者名 田中咲子ほか計8名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 98
3. 書名 平成30年度～令和3年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築 -	

1. 著者名 中村るいほか計8名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 98
3. 書名 平成30年度～令和3年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築 -	

1. 著者名 Akiko Mroo et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Phojbos Verlag	5. 総ページ数 295
3. 書名 Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World	

1. 著者名 師尾晶子ほか計8名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 98
3. 書名 平成30年度～令和3年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 パルテノン彫刻研究 - オリエント美術を背景とする再解釈の構築 -	

1. 著者名 師尾晶子ほか計12名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 424
3. 書名 はじめて学ぶ西洋古代史	

1. 著者名 師尾晶子ほか計17名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 464
3. 書名 古代地中海世界と文化的記憶	



1. 著者名 Toshihiro Osada et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 541
3. 書名 Gedenkschrift fuer Wolfgang Wohlmayr. ArchaeoPlus. Schriften zur Archaeologie und Archaeometrie der Paris Lodron Universitaet Salzburg 13	

1. 著者名 Toshihiro Osada et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 630
3. 書名 Akten des 17. Oesterreichischen Archaerologentages. ArchaeoPlus 11	

1. 著者名 小堀馨子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 423
3. 書名 市川裕先生献呈論文集	

1. 著者名 Emiko Tanaka et al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 541
3. 書名 Gedenkschrift fuer Wolfgang Wohlmayr. ArchaeoPlus. Schriften zur Archaeologie und Archaeometrie der Paris Lodron Universitaet Salzburg 13	

1. 著者名 Emiko Tanaka et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 630
3. 書名 Akten des 17. Oesterreichischen Archaerologentages. ArchaeoPlus 11	

1. 著者名 中村るい	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 222
3. 書名 ギリシャ美術史入門2 神々と英雄と 人間	

1. 著者名 師尾晶子ほか計4名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 321
3. 書名 地中海圏都市の活力と変貌	

1. 著者名 Akiko Moroo et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Koc University Press	5. 総ページ数 354
3. 書名 The City Basilica in Tlos	

1. 著者名 師尾晶子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 田中咲子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新潟日報事業社	5. 総ページ数 72
3. 書名 基本の「き」からの美術鑑賞入門	

1. 著者名 小堀馨子, 勝又 悦子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 423
3. 書名 一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集	

1. 著者名 小堀馨子, 金澤周ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 長田年弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 いなもと印刷	5. 総ページ数 58
3. 書名 2017 - 2019年度 文部科学省科学研究費 挑戦的萌芽研究「聖地オリュンピア - 戦闘行為の抑止への宗教および視覚芸術の関与」(16K13169) 報告書	

1. 著者名 Rui Nakamura et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 472
3. 書名 Receptions of Greek and Roman Antiquity in East Asia	

1. 著者名 玉瀬友美、土井原崇浩、中村るい、その他6名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 リーブル出版	5. 総ページ数 98
3. 書名 子どもとアートを地域でつなぐ	

1. 著者名 高島純夫, 齋藤貴弘, 竹内一博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 127
3. 書名 図説 古代ギリシアの暮らし	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 咲子  (Tanaka Emiko)  (00641101)	新潟大学・人文社会科学系・准教授    (13101)	
研究分担者	小堀 馨子  (Kobori Keiko)  (00755811)	帝京科学大学・総合教育センター・准教授    (33501)	
研究分担者	師尾 晶子  (Moroo Akiko)  (10296329)	千葉商科大学・商経学部・教授    (32504)	
研究分担者	中村 るい  (Nakamura Rui)  (50535276)	東海大学・文化社会学部・特任教授    (32644)	
研究分担者	仏山 輝美  (Hotokeyama Terumi)  (70315274)	筑波大学・芸術系・教授    (12102)	
研究分担者	大原 央聡  (Ohara Hisaaki)  (80361327)	筑波大学・芸術系・教授    (12102)	
研究分担者	齊藤 貴弘  (Saito Takahiro)  (80735291)	愛媛大学・法文学部・准教授    (16301)	
研究分担者	中村 義孝  (Nakamura Yoshitaka)  (10198252)	筑波大学・芸術系・教授    (12102)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金子 亨  (KANEKO Toru)		
研究協力者	小石 絵美  (KOISHI Emi)		
研究協力者	小松 誠  (KOMATSU Makoto)		
研究協力者	坂田 道生  (SAKATA Michio)		
研究協力者	櫻井 万里子  (SAKURAI Mariko)		
研究協力者	篠塚 千恵子  (SHINOZUKA Chieko)		
研究協力者	瀧本 みわ  (TAKIMOTO Miwa)		
研究協力者	中村 友代  (NAKAMURA Tomoyo)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	福本 薫  (FUKUMOTO Kaori)		
研究協力者	水田 徹  (MIZUTA Akira)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計11件

国際研究集会 Raphael Jacob博士共同セミナー 0092022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 P. Higgs博士、D. Williams博士ガイダンス 09092022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Professor C. M. Keesling 講演会 26022022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Prof. M. Meyer講演会 講演会 27112021	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Dr. Dyfri Williams 講演会 26062021	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Theodora Jim講演会12092020	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Parthenon Project Japan 2018-2021 国際シンポジウム 18032019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Professor C. M. Keesling 講演会 17112018	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Professor C. M. Keesling 講演会 14112018	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Vasileia Manidaki博士ガイダンス 15092018	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World: 4-7 September 2018, Nagoya University	開催年 2018年～2018年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ベルギー	Universite libre de Bruxelles			
英国	University of Edinburgh	University of Oxford	University of Durham	他1機関
米国	Georgetown University	University of California, Berkeley	National Hellenic Research Foundation	他2機関
ギリシャ	Acropolis Restoration Service	Natioal University of Athens	Hellenic Education and Research Center	
オーストリア	University of Vienna			